

愛媛県立今治西高等学校

いじめ防止基本方針

平成26年6月

今治西高校 教育方針

徳・知・体の調和のとれた健全な心身の発達を目指し、個性豊かな人間の育成を期する。

- 1 温かい人間性と豊かな社会性を身に付けさせる。
- 2 高い知性と豊かな創造性を養う。
- 3 強い意志とたくましい体力を培う。

指導目標

- 1 伝統の「螢雪精神」を受け継ぎ、主体的にたくましく生きる力を育てる。
- 2 学力の向上と体力の増進に努め、調和のとれた人間形成を目指す。
- 3 一人一人を生かし伸ばす中で、自信と誇りを持ち、自ら考え判断し行動できる力を育てる。
- 4 情報化、国際化の進展に対応できる資質や能力を育てる。
- 5 郷土を愛し、地域社会の文化・伝統を継承し、貢献できる生徒を育てる。

本年度の重点努力目標

自ら学び自ら考える力と豊かな人間性を身に付け、たくましく生きる生徒の育成
—自己実現を目指し、「螢雪精神」をもって切磋琢磨する諸活動を通じて—

1 学校いじめ防止基本方針

いじめは、冷やかしやからかいなどのほか、暴力行為に及ぶもの、情報機器を介し場所を問わないものなど学校だけでは対応が困難なものもある。また、いじめを原因として不登校や生命を絶とうとする行為に及ぶなど、深く傷つき、悩んでいる生徒もいる。そして、いじめは、いじめを受けた生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長や人格の形成を阻害するばかりでなく、生命や身体に重大な危機を生じさせるおそれがある。いじめの問題への対応は学校として大きな課題である。

そこで、生徒たちが温かい人間性と豊かな社会性を身に付け、意欲を持って充実した高校生活を送れるよう、家庭や地域と連携を取りつつ、いじめ防止に向け日常の指導体制を定め、未然防止を図りながら、早期発見に取り組むとともに、いじめを認知した場合は適切にかつ速やかに解決するため、「愛媛県いじめの防止等のための基本的な方針」に基づき「学校いじめ防止基本方針」を定める。

2 いじめとは

(1) いじめの定義

「いじめ」とは、生徒等に対して、当該生徒等と一定の人的関係にある他の生徒等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった生徒等が心身の苦痛を感じているものをいう。

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめられた児童生徒の立場に立つことが必要である。この際、いじめには、多様な態様があることに鑑み、法の対象となるいじめに該当するか否かを判断するに当たり、「心身の苦痛を感じているもの」との要件が限定して解釈されることのないよう努めることが必要である。

(2) いじめの構造と動機

ア いじめの構造

いじめは「いじめられる生徒」「いじめる生徒」だけでなく、「観衆」「傍観者」など周囲の生徒がいる場合が多い。周囲の生徒の捉え方により、抑止作用となることもあるが、いじめをあおりたてたり、いじめに参加しないと新たな標的になるかもしれないという心理からいじめに加わったりするなど、促進作用となることもある。

イ いじめの動機

いじめの動機には、以下のものなどが考えられる。（東京都立研究所からの要約引用）

- ・嫉妬心（相手をねたみ引きずり下ろそうとする。）
- ・支配欲（相手を思いどおりに支配しようとする。）
- ・愉快犯（遊び感覚で愉快的な気持ちを味わおうとする。）
- ・同調性（強いものに追従する、数の多い側に入りたい。）
- ・嫌悪感（感覚的に相手を遠ざけたい。）
- ・反発、報復（相手の言動に対し反発・報復したい。）
- ・欲求不満（いらいらを晴らしたい。）

(3) いじめの様態

いじめの様態には、以下のものなどが考えられる。

- ・冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- ・仲間外れ、集団による無視をされる。
- ・軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。
- ・ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。
- ・金品をたかられる。
- ・金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。
- ・パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。

(4) いじめに対する基本的な考え方

- ・「いじめは、絶対に許されない」との認識
- ・「いじめの未然防止は、学校教職員の重要課題」との認識
- ・「いじめは、いじめる方が悪い、いじめられる方に責任はない」との認識
- ・「いじめは、どの生徒にも、どの学校においても起こり得る」との認識

3 いじめの防止

いじめは、どの生徒にも起こり得るという事実を踏まえ、全ての生徒を対象に、いじめに向かわせないための未然防止に取り組むことが求められる。学校においては教育活動全体を通して、自尊感情や規範意識を高め、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重し合える態度など、豊かな人間性や社会性を育てることが重要である。そのためには、以下を特に重視しなければならない。

(1) 学習指導の充実

- ・規範意識、帰属意識を互いに高める集団づくり
- ・コミュニケーション能力を育み、自信を持たせ、一人一人に配慮した授業づくり

(2) 特別活動、道徳教育の充実

- ・ホームルーム活動における望ましい人間関係づくりの活動
- ・ボランティア活動の充実

(3) 教育相談の充実

- ・面談の定期的実施（4月・7月・9月・12月・2月）
- ・教職員研修の拡充

(4) 人権教育の充実

- ・人権を尊重する環境づくり
- ・講演会等の開催

- (5) 情報教育の充実
 - ・教科「情報」におけるモラル教育の充実
- (6) 保護者・地域との連携
 - ・いじめ防止対策推進法、学校いじめ防止基本方針等の周知
 - ・公開授業等学校公開の実施

4 いじめ防止の指導体制・組織的対応

(1) いじめ防止対策委員会

学校におけるいじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処等に関する措置を実効的に行うため、組織的な対応を行うため常設の組織として「いじめ防止対策委員会」を設置する。

「いじめ防止対策委員会」は、学校が組織的にいじめの問題に取り組むに当たって中核となる役割を担う。具体的には、以下の役割を担う。

ア 学校基本方針に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成、実行、検証、修正の中核としての役割

イ いじめの相談・通報の窓口としての役割

ウ いじめの疑いに関する情報や児童生徒の問題行動などに係る情報の収集と記録、共有を行う役割

エ いじめの疑いに係る情報があったときには緊急会議を開いて、いじめの情報の迅速な共有、関係のある児童生徒への事実関係の聴取、指導や支援の体制・対応方針の決定と保護者との連携といった対応を組織的に実施するための中核としての役割

(2) 日常の指導体制

いじめを未然に防止し、早期に発見するための日常の指導体制を別紙1のとおりとする。

(3) 緊急時の組織的対応

いじめを認知した場合のいじめの解決に向けた組織的な取組を別紙2のとおりとする。

5 いじめの早期発見

いじめは教職員の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけ合いを装って行われたりするなど、大人が気づきにくい判断しにくい形で行われることが多い。このことを教職員は認識し、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持ち、何らかのいじめのサインを見逃すことなく発見し、早期に対応することが重要である。

(1) いじめの発見

いじめ行為を直接発見した場合は、その行為をすぐ止めさせるとともに、いじめられている生徒や通報した生徒の安全を確保する。「緊急時の組織的対応」により速やかに報告し、事実確認をする。

(2) いじめられている生徒、いじめている生徒のサイン

別紙3

(3) 教室、家庭でのサイン

別紙4

(4) 相談体制の整備

- ・相談窓口の設置及び周知
- ・面談の定期的実施（4月・7月・9月・12月・2月）

(5) 定期的調査の実施

- ・回収方法を考慮した上でのアンケート実施（6月・10月・2月）

(6) 情報の共有

- ・報告経路の明示、報告の徹底
- ・職員会議等での情報共有
- ・要配慮生徒の実態把握
- ・進級時の引継ぎ

6 いじめへの対応

(1) 生徒への対応

ア いじめられている生徒への対応

いじめられている生徒の苦痛を共感的に理解し、心配や不安を取り除くとともに、全力で守り抜くという「いじめられている生徒の立場」で継続的に支援することが重要である。

- ・安全・安心を確保する。
- ・心のケアをする。
- ・今後の対応について、共に考える。
- ・活動の場等を設定し、認め、励ます。
- ・温かい人間関係をつくる。

イ いじめている生徒への対応

いじめは、決して許されないという毅然とした態度を保ちつつ、いじめている生徒の内面を理解し、他人の痛みを知ることができるようにする指導を根気強く行う。

- ・いじめの事実を確認する。
- ・いじめの背景や要因の理解に努める。
- ・いじめられている生徒の苦痛に気付かせる。
- ・今後の生き方を考えさせる。
- ・必要がある場合は懲戒を加える。

(2) 関係集団への対応

被害・加害生徒だけでなく、おもしろがって見ていたり、見て見ぬふりをしたり、止めようとしなかったりする集団に対しても、自分たちでいじめ問題を解決する力を育成することが大切である。また、いじめを止めたかったが勇気がなかったりして止められなかった生徒の無力感に注意を払うことも今後のため重要である。

- ・自分の問題として捉えさせる。
- ・勇気がなくて止められなかった生徒の気持ちを認め、自己肯定感が持てるようにする。
- ・望ましい人間関係づくりに努める。
- ・自尊感情が味わえる集団づくりに努める。

(3) 保護者への対応

ア いじめられている生徒の保護者に対して

相談されたケースでは、複数の教員で対応し、学校は全力を尽くすという決意を伝え、少しでも安心感を与えられるようにする。

- ・じっくりと話を聞く。
- ・生徒・保護者の受けた苦痛に対し、本気で精一杯の理解を示す。
- ・今後のケアについて学校への協力を求める。

イ いじめている生徒の保護者に対して

事実を把握したら速やかに面談し丁寧に説明する。

- ・本人の行動が変わるよう学校として努力していくこと、そのためには保護者の協力が必要であることを伝える。

- ・生徒や保護者の心情に配慮しつつ、本人と他の人との関わりについて考えていく。
- ・今後、何か気付いたことがあれば報告してもらう。

ウ 保護者同士が対立する場合等

- ・教員が間に入って関係調整が必要となる場合がある。
- ・双方の和解を急がず、相手や学校に対する不信感等の思いを丁寧に聞き、寄り添う態度で臨む。
- ・管理職が率先して対応することが有効な手段となることもある。
- ・県教育委員会や関係機関と連携して解決を目指す。

(4) 関係機関との連携

いじめは、学校だけの解決が困難な場合もある。情報の交換だけでなく、一体的な対応をすることが重要である。

ア 県教育委員会及び愛媛県いじめ問題対策本部会議との連携

- ・関係生徒への支援・指導、保護者への対応方法について連携する。
- ・関係機関との調整を依頼する。

イ 警察との連携

- ・心身や財産に重大な被害が疑われる場合、また、犯罪等の違法行為がある場合は連携する。

ウ 福祉機関との連携

- ・家庭の養育に関する指導・助言の面で連携する。
- ・家庭での生徒の生活や環境の状況把握について連絡を取り合う。

エ 医療機関との連携

- ・精神保健について相談を行う。
- ・精神症状についての治療、指導・助言について連携する。

オ 県総合教育センターとの連携

- ・カウンセリングや教育相談などについて連携する。

7 ネットいじめへの対応

(1) ネットいじめとは

- ・文字や画像を使い、特定の生徒の誹謗中傷を不特定多数の者や掲示板などに送信する。
- ・特定の生徒になりすまし社会的信用をおとしめる行為をする。
- ・掲示板等に特定の生徒の個人情報に掲載する。
- ・ネットいじめは、犯罪行為である。

(2) ネットいじめの予防

ア 保護者への啓発

- ・フィルタリング
- ・保護者の見守り

イ 情報教育の充実

- ・情報モラル教育の充実

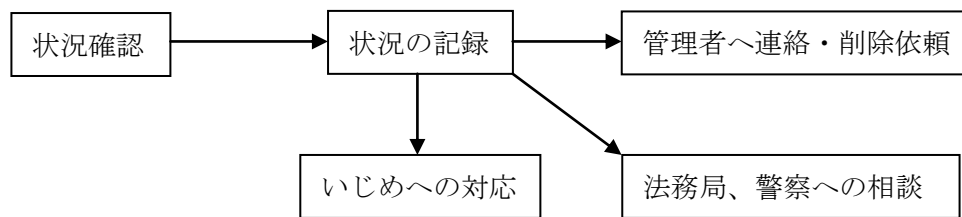
ウ ネット社会についての講話

(3) ネットいじめへの対処

ア ネットいじめの把握

- ・被害者からの訴え
- ・閲覧者からの情報
- ・ネットパトロール

イ 不当な書き込みへの対処



8 重大事態への対応

(1) 重大事態とは

ア 生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがある。

- ・生徒が自殺を企図した場合
- ・精神性の疾患を発症した場合
- ・身体に重大な障害を負った場合
- ・高額な金品を奪い取られた場合

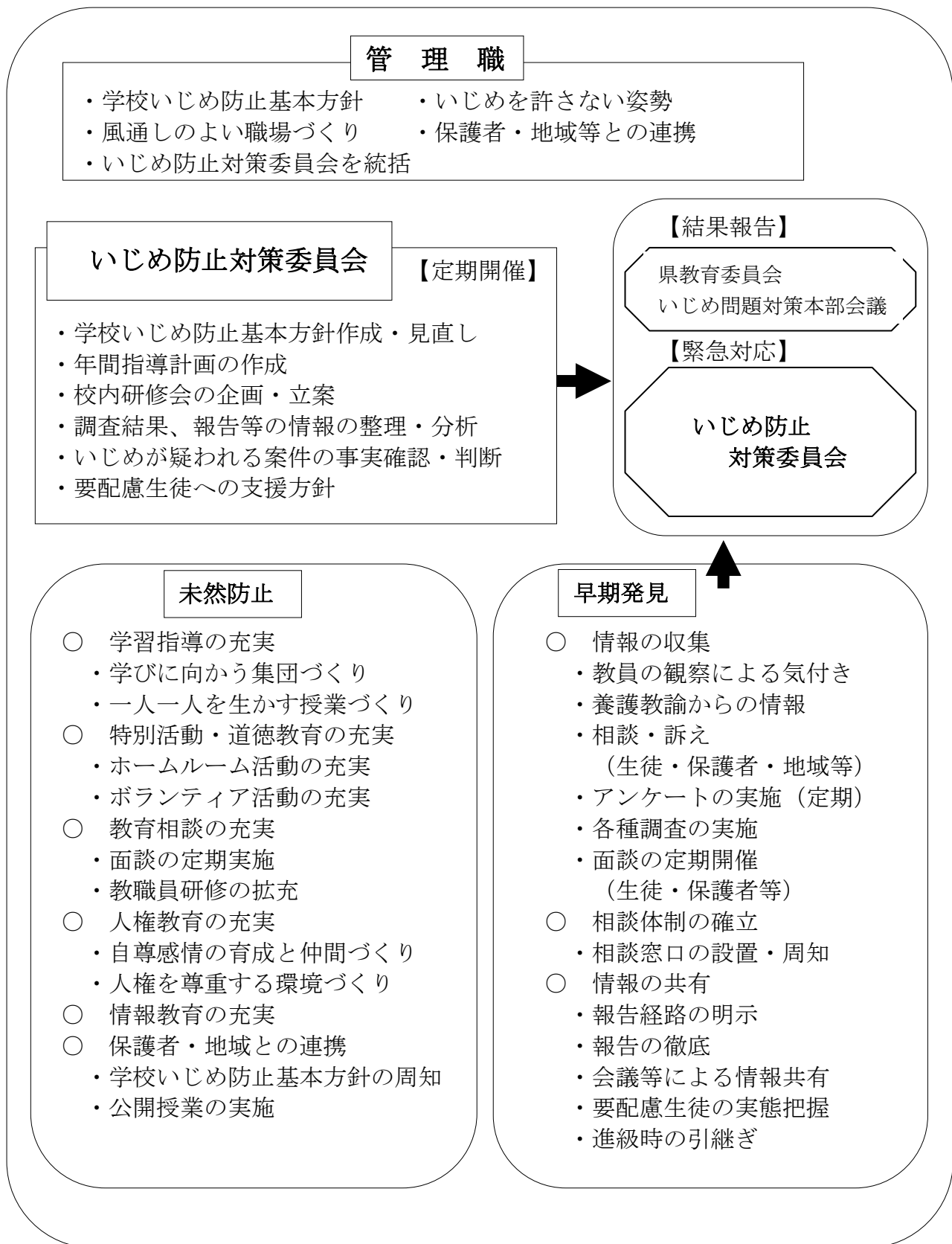
イ 生徒が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている。

- ・年間の欠席が30日程度以上の場合
- ・連続した欠席の場合は、状況により判断する。

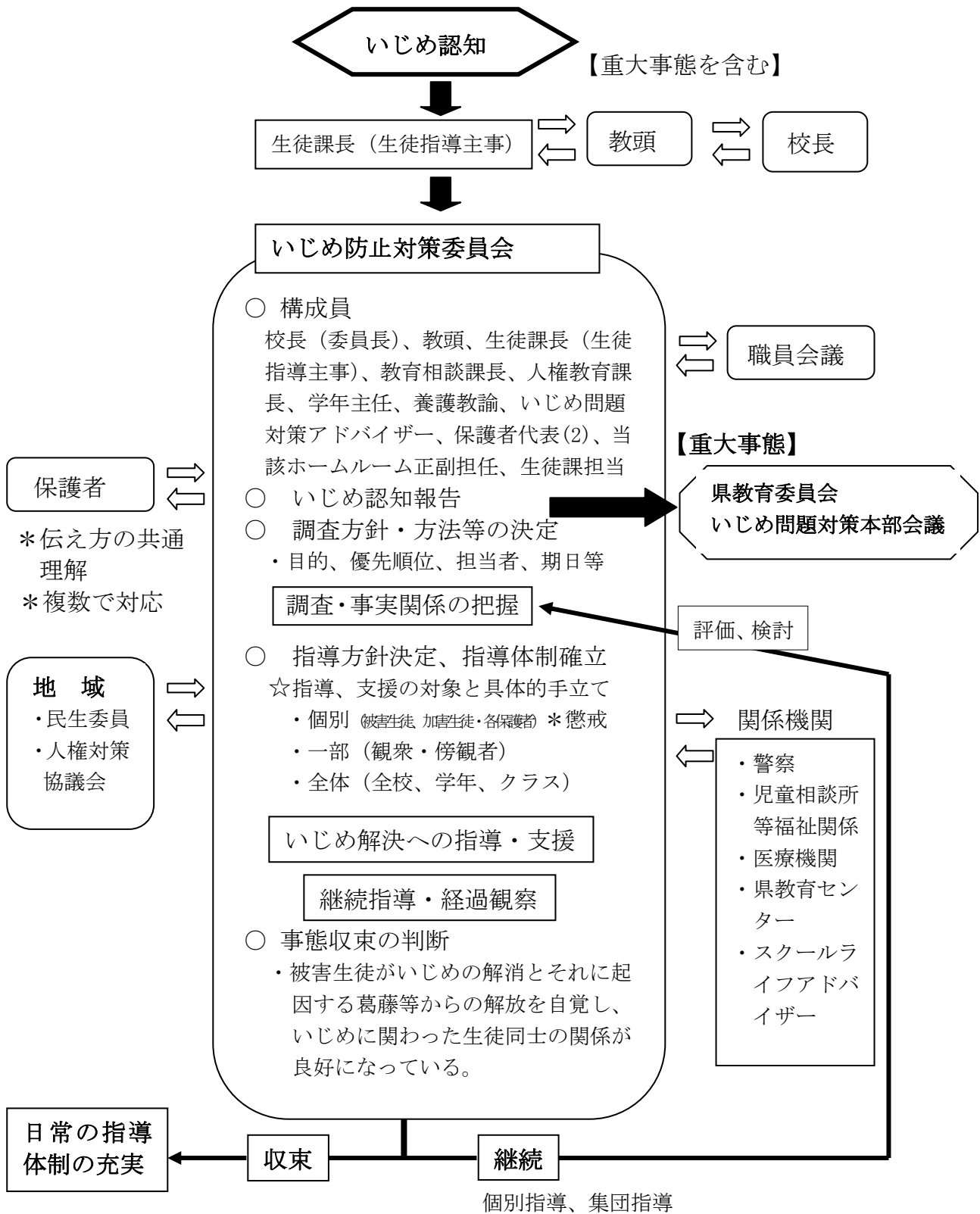
(2) 重大事態時の報告・調査協力

学校が重大事態と判断した場合、県教育委員会に報告するとともに、県教育委員会が設置する重大事態調査のための組織に協力する。

別紙1 日常の指導体制（未然防止・早期発見）



別紙2 緊急時の組織的対応 (いじめへの対応)



別紙3

1 いじめられている生徒のサイン（例）

いじめられている生徒は自分から言い出せないことが多い。だからこそ、多くの教員の目で多くの場面を観察することで、小さなサインを見逃さないようにしなければならない。大切なのは気付くことができるかどうかで、普段から生徒をよく見てしっかり関わっていることが重要になる。

場 面	サ イ ン（例）
登校時 朝のショートホームルーム	<ul style="list-style-type: none">・遅刻欠席が増える。その理由を明確に言わない。・教員と視線が合わず、うつむいている。・体調不良を訴える。・提出物を忘れて、期限に遅れたりする。・担任が教室に入室後、遅れて入室する。
授業中	<ul style="list-style-type: none">・保健室、トイレに行くようになる。・忘れ物が目立つ。・机の周りが乱雑になっている。・決められた座席と違う席に着いている。・教科書やノート、持ち物に汚れがある。・突然個人名が出される。
休み時間等	<ul style="list-style-type: none">・弁当にいたずらをされる。・昼食を自分の席で食べない。・用のない場所にいることが多い。・ふざけ合っているが表情がさえない。・衣服が汚れていたりする。・一人で清掃している。
放課後等	<ul style="list-style-type: none">・慌てて下校する。または用もないのに学校に残る。・持ち物がなくなったり、持ち物にいたずらされる。・一人で部活動の準備や片付けをしている。

2 いじめている生徒のサイン

いじめている生徒がいることに気付いたら、より積極的に生徒の中に入り、コミュニケーションを増やし、状況を把握する。

サ イ ン
<ul style="list-style-type: none">・教室等で仲間同士で集まり、ひそひそ話をしている。・ある生徒にだけ周囲が異常に気を遣っている。・教員が近づくと、不自然に分散したりする。・自己中心的な行動が目立ち、ボスの存在の生徒がいる。

別紙4

1 教室でのサイン

教室内がいじめの場所となることが多い。教員が教室にいる時間を増やしたり、休み時間に廊下を通る際に注意を払ったりするなど、サインを見逃さないようにする。

サイン
<ul style="list-style-type: none">・嫌なあだ名が聞こえる。・席替えなどで近くの席になることを嫌がる。・何か起こると、特定の生徒の名前が出る。・筆記用具等の貸し借りが多い。
<ul style="list-style-type: none">・壁等にいたずら、落書きがある。・机や椅子、教材等が乱雑になっている。

2 家庭でのサイン

家庭でも多くのサインを出している。生徒の動向を振り返り、確認することでサインを発見しやすくなる。以下のサインが見られたら、学校との連携が図れるよう保護者に伝えておくことが大切である。また、こうしたサインがないか、保護者に尋ねることも必要になる。

サイン
<ul style="list-style-type: none">・学校や友人のことを話さなくなる。・友人やクラスの不平・不満を口にすることが多くなる。・朝、起きてこなかったり、学校に行きたくないといったりする。・電話に出たがらなかったり、友人からの誘いを断ったりする。・受信したメールをこそこそ見たり、電話におびえたりする。・不審な電話やメールがある。・遊ぶ友達が急に変わる。・部屋に閉じこもったり、家から出なかったりする。
<ul style="list-style-type: none">・理由のはっきりしない衣服の汚れがある。・理由のはっきりしない打撲や擦り傷がある。・登校時刻が近づくと体調不良を訴える。・食欲不振、不眠を訴える。
<ul style="list-style-type: none">・学習時間が減る。・成績が下がる。
<ul style="list-style-type: none">・持ち物がなくなったり、壊されたり、落書きされたりする。・自転車がよくパンクする。・家庭の品物、金銭がなくなる。・大きな額の金銭を欲しがる。